

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社ながの鑑定
千曲（県） -1	長野県	長野第1	氏名	不動産鑑定士 奥村 淳
鑑定評価額	5,190,000円		1㎡当たりの価格	29,500円/㎡

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和6年7月1日	(4) 鑑定評価日	令和6年7月10日	(6) 路線価	[令和6年1月] 路線価又は倍率	円/㎡
(2) 実地調査日	令和6年7月2日	(5) 価格の種類	正常価格		倍率種別	1.1 倍
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等		千曲市大字屋代字返町487番9			②地積 (㎡)	176	⑨法令上の規制等	(都) 1低専 (50,80) (その他) (50,80)	
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況	1.8km			
(2) 近隣地域	①範囲		東 80m、西 120m、南 90m、北 110m			②標準的使用	戸建住宅地			
	③標準的画地の形状等		間口 約 13.0m、奥行 約 14.0m、規模			180㎡程度、形状 ほぼ正方形				
	④地域的特性	特記事項	特にない	街路	基準方位北、6m	交通施設	屋代駅北東方 1.8km	法令規制	(都) 1低専 (50,80)	
(3) 最有効使用の判定	戸建住宅地					(4) 対象基準地の個別的要因	方位	0.0		
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		比準価格			29,500円/㎡				
	収益還元法		収益価格			/ 円/㎡				
	原価法		積算価格			/ 円/㎡				
	開発法		開発法による価格			/ 円/㎡				
(6) 市場の特性	同一需給圏は旧更埴市内の市街地及び近郊の住宅地域。需要者は当該圏内の居住者が中心であるが、他市域等からの転入もみられる。屋代駅や屋代高校前駅まで徒歩ではやや遠く、国道等へのアクセスも悪く、交通利便性に難があり住宅地需要は伸び悩んできたが、近年の金融環境改善の影響から一定の需要が戻りつつある。需給圏内の土地価額は500～600万円程度、新築の戸建物件は2200万円程度が需要の中心と思われる。									
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	近隣地域周辺では大規模地に限りアパートも散見される。しかし、後記の理由から収益還元法は採用しない。近隣地域内では戸建住宅が一般的で収益性よりも居住の快適性が重視され自用目的での取引が中心と考えられる。よって、屋代地区の住宅地取引に基づき比較検討した比準価格を重視し、指定基準地との検討を踏まえ、地積と単価、総額との関連にも留意して本件鑑定評価額を上記のとおり決定した。									
(8) 公示価格とした	① <input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路交通環境画地行政その他	地域要因
	公示価格		[]	100	100	[]		標準化補正	街路交通環境画地行政その他	地域要因
(9) 指定基準地からの検討	① 指定基準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路交通環境画地行政その他	地域要因
	千曲（県） -2		[]	100	100	[]		標準化補正	街路交通環境画地行政その他	地域要因
(10) 対年前の標準価格の等前	①-1対象基準地の検討		③価格形成要因の	[一般的] 物価高騰、実質賃金減少等により景気好循環には至らないが、住宅地取引は低金利や住宅ローン減税等金融緩和継続から好調を維持。						
	■継続 <input type="checkbox"/> 新規			[地域] 市中心部への時間的距離は短い、南の幹線街路への量販店出店数や種類数が世帯数の割にはまだ少なく利便性は発展途上にある。						
	前年標準価格			[個別的] 個別的要因に変動はない。						
①-2基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討		②変動率								
<input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地		年間	0.0%	半年間	%					
標準地番号										
公示価格		円/㎡								

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社ながの鑑定
千曲（県） -2	長野県	長野第1	氏名	不動産鑑定士 奥村 淳
鑑定評価額	9,150,000 円		1㎡当たりの価格	33,500 円/㎡

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和6年7月1日	(4) 鑑定評価日	令和6年7月10日	(6) 路線価	[令和6年1月] 路線価又は倍率	円/㎡ 1.1 倍
(2) 実地調査日	令和6年7月2日	(5) 価格の種類	正常価格		倍率種別	
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等		千曲市大字杭瀬下字見崎1107番1外			②地積 (㎡)	273	⑨法令上の規制等	
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況	(都) 1低専 (50,80) (その他) (50,80)		
(2) 近隣地域	①範囲		東 50 m、西 120 m、南 100 m、北 30 m		②標準的使用	低層住宅地			
	③標準的画地の形状等		間口 約 18.0 m、奥行 約 15.0 m、規模		270㎡程度、形状 長方形				
	④地域的特性	特記事項	特にない	街路	基準方位北、6 m 市道	交通施設	屋代駅南西方 1.7 km	法令規制	(都) 1低専 (50,80)
(3) 最有効使用の判定	低層住宅地				(4) 対象基準地の個別的要因	方位 +3.0			
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		比準価格		33,500 円/㎡				
	収益還元法		収益価格		13,000 円/㎡				
	原価法		積算価格		/ 円/㎡				
	開発法		開発法による価格		/ 円/㎡				
(6) 市場の特性	同一需給圏は旧更埴市内の市街地及び近郊の住宅地域。需要者は当該圏域内の居住者が中心であるが、他市域等からの転入もみられる。屋代駅まで徒歩ではやや遠く、周辺の郊外路線商業施設も十分とはいえないが、市内平均的水準は確保していると思われる。近年の金融環境改善・維持や水害からの時間的経過により一定の需要が戻りつつある。需給圏内の土地価額は900万円前後、新築の戸建物件は2500万円程度が需要の中心と思われる。								
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	千曲市役所に近く中心部寄りのため近隣地域及び周辺にはアパートも散見され賃貸借需要は普通程度にある。しかし、当該近隣地域内では主に戸建住宅が建ち並ぶ状況で、そもそも収益性より居住の快適性が重視され、自用目的での取引が中心と考えるのが妥当である。よって、旧更埴市内の住宅地取引に基づき比較検討した比準価格を重視し、収益価格は参考に止め、地積と単価、総額との関連にも留意して本件鑑定評価額を上記のとおり決定した。								
(8) 公示価格とした	① <input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地 標準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路交通環境画地行政その他
	公示価格 円/㎡		[] 100	100	100	[] 100	[] 100	標準化補正 街路交通環境画地行政その他	地域要因 街路交通環境行政その他
(9) 指定基準地からの検討	① 指定基準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路交通環境画地行政その他
	前年指定基準地の価格 円/㎡		[] 100	100	100	[] 100	[] 100	標準化補正 街路交通環境画地行政その他	地域要因 街路交通環境行政その他
(10) 対象基準地の等前	①-1対象基準地の検討 ■継続 <input type="checkbox"/> 新規 前年標準価格 33,500 円/㎡		③ 価格形成要因の変動状況	一般的 物価高騰、実質賃金減少等により景気好循環には至らないが、住宅地取引は低金利や住宅ローン減税等金融緩和継続から好調を維持。					
	①-2基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討 <input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡			地域 市中心部への時間的距離は短く、市役所新庁舎完成以降生活利便性はやや向上。水害による一時的な需要減少も落ち着いた感がある。					
	②変動率 年間 0.0% 半年間 %			個別的 個別的な要因による変動はない。					

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社ながの鑑定
千曲（県） -3	長野県	長野第1	氏名	不動産鑑定士 奥村 淳
鑑定評価額	4,010,000 円		1㎡当たりの価格	18,500 円/㎡

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和6年7月1日	(4) 鑑定評価日	令和6年7月10日	(6) 路線価	[令和6年1月] 路線価又は倍率	円/㎡
(2) 実地調査日	令和6年7月2日	(5) 価格の種類	正常価格		倍率種別	1.1 倍
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等		千曲市大字上山田字東組376番1			②地積 (㎡)	217	⑨法令上の規制等		
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況	(都) 1低専 (50,80) (その他) (50,80)			
1:1.5		住宅 W1	一般住宅、アパート等が混在する住宅地域	北西3m市道	水道、下水	戸倉 4.3km				
(2) 近隣地域	①範囲		東 80 m、西 20 m、南 20 m、北 80 m		②標準的使用	戸建住宅地				
	③標準的画地の形状等		間口 約 13.0 m、奥行 約 17.0 m、規模		220㎡程度、形状 ほぼ長方形					
	④地域的特性	特記事項	特にない	街路	基準方位北、3m市道	交通施設	戸倉駅南方 4.3km	法令規制	(都) 1低専 (50,80)	
⑤地域要因の将来予測		旧上山田町のうち中心部から外れた既成住宅地域で、状況変化に乏しく当面現状維持と予測する。特に街路状況が悪く、千曲市中心部からは遠く、上山田温泉街の不況の間接的影響もあり地価は当面下落と予測する。								
(3) 最有効使用の判定	戸建住宅地					(4) 対象基準地の個別的要因	方位	+1.0		
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		比準価格		18,500 円/㎡					
	収益還元法		収益価格		/ 円/㎡					
	原価法		積算価格		/ 円/㎡					
	開発法		開発法による価格		/ 円/㎡					
(6) 市場の特性	同一需給圏は千曲市南部の戸倉・上山田地区の住宅地域。需要者は当該圏内の居住者が中心で他市域等からの転入は少ない。戸倉・上山田温泉を中心に栄えた地域で温泉観光への依存度が大きい。長引く温泉利用客減少の影響、交通利便性にも難があるため住宅地需要が伸びる理由が見当たらない。需給圏内の土地価額は300～400万円程度、新築の戸建物件は1800万円程度が需要のほぼ限界と思われる。									
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	近隣地域内や周辺では大規模地に限りアパートも散見される。しかし、後記の理由から本件評価では収益還元法は採用しない。近隣地域内では戸建住宅が一般的で自用目的での取引が中心と考えられる。よって、近隣地域と同じ千曲川左岸を中心とした住宅地取引に基づき比較検討した比準価格を重視し、地積と単価、総額との関連にも留意して本件鑑定評価額を上記のとおり決定した。									
(8) 公示価格とした	① <input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路交通環境画地行政その他	
	標準地番号		[]	100	100	[]		標準化補正	街路交通環境画地行政その他	
公示価格		円/㎡	100	[]	[]	100		標準化補正	街路交通環境画地行政その他	
(9) 指定基準地からの検討	① 指定基準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路交通環境画地行政その他	
	前年指定基準地の価格		[]	100	100	[]		標準化補正	街路交通環境画地行政その他	
前年指定基準地の価格		円/㎡	100	[]	[]	100		標準化補正	街路交通環境画地行政その他	
(10) 対象基準地の等前	①-1対象基準地の検討		③ 価格変動状況	[一般的] 物価高騰、実質賃金減少等により景気好循環には至らないが、住宅地取引は低金利や住宅ローン減税等金融緩和継続から好調を維持。					⑦内訳	街路交通環境画地行政その他
	■継続 <input type="checkbox"/> 新規			[地域] 上山田地区の人口、世帯数はここ数年総じて減少傾向。						
	前年標準価格 18,900 円/㎡			[個別的] 個別的要因に変動はない。						
①-2基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討		②変動率								
<input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地		年間	-2.1 %	半年間	%					
標準地番号										
公示価格		円/㎡								

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社ながの鑑定
千曲（県） -4	長野県	長野第1	氏名	不動産鑑定士 奥村 淳
鑑定評価額	5,730,000 円		1㎡当たりの価格	28,500 円/㎡

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和6年7月1日	(4) 鑑定評価日	令和6年7月10日	(6) 路線価	[令和6年1月]	円/㎡
(2) 実地調査日	令和6年7月2日	(5) 価格の種類	正常価格		路線価又は倍率	
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等		千曲市大字戸倉字石原田2074番2			②地積 (㎡)	201	⑨法令上の規制等	
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況	(都) 2 中専 (60, 200) (その他) (60, 164)		
(2) 近隣地域	①範囲		東 30 m、西 100 m、南 20 m、北 20 m		②標準的使用	低層住宅地			
	③標準的画地の形状等		間口 約 13.0 m、奥行 約 15.0 m、規模			200 ㎡程度、形状 長方形			
	④地域的特性	特記事項	国道18号や小学校に近い既存住宅地域	街路	基準方位北、4.1 m市道	交通施設	戸倉駅南西方 800m	法令規制	(都) 2 中専 (60, 164)
(3) 最有効使用の判定	低層住宅地				(4) 対象基準地の個別的要因	方位 +1.0			
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		比準価格		28,500 円/㎡				
	収益還元法		収益価格		9,970 円/㎡				
	原価法		積算価格		/ 円/㎡				
	開発法		開発法による価格		/ 円/㎡				
(6) 市場の特性	同一需給圏は千曲市南部の戸倉・上山田地区の住宅地域。需要者は当該圏内の居住者が中心で他市域等からの転入は少ない。戸倉・上山田温泉を中心にかつて栄えた地域で温泉観光への依存度が大きく、台風19号による千曲川決壊やコロナ禍による温泉利用客減少は一服したが、街路条件がやや劣るため住宅地需要の底打ち感はまだ出ない。需給圏内の土地価額は500～600万円程度、新築の戸建物件は2100万円程度が需要のほぼ限界と思われる。								
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	旧戸倉町の中心部寄りのため近隣地域及び周辺にはアパートも散見され賃貸借需要は存在する。しかし、当該近隣地域内では主に戸建住宅が建ち並ぶ状況で、そもそも収益性より居住の快適性が重視され、自用目的での取引が中心と考えるのが妥当である。よって、当市戸倉地区中心の住宅地取引に基づき比較検討した比準価格を重視し、収益価格は参考に止め、地積と単価、総額との関連にも留意して本件鑑定評価額を上記のとおり決定した。								
(8) 公示価格とした	① <input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路交通環境画地行政その他
	公示価格		[]	100	100	[]	100	標準化補正	街路交通環境画地行政その他
(9) 指定基準地からの検討	① 指定基準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路交通環境画地行政その他
	前年指定基準地の価格		[]	100	100	[]	100	標準化補正	街路交通環境画地行政その他
(10) 対年標準価格の検討	①-1対象基準地の検討		③ 価格形成要因の変動状況	一般的 物価高騰、実質賃金減少等により景気好循環には至らないが、住宅地取引は低金利や住宅ローン減税等金融緩和継続から好調を維持。					
	■継続 <input type="checkbox"/> 新規			地域 旧戸倉町の既存住宅地域内で小規模新規分譲が散見されるようになった。総じて画地規模は小さく、単価設定はまだ高低差がある。					
	前年標準価格 28,600 円/㎡			個別的 個別的要因に変動はない。					
①-2基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討		②変動率							
<input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地		年間	-0.3 %	半年間	%				

鑑定評価書 (令和6年地価調査)

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	内藤事務所有限会社
千曲(県)-5	長野県	第1	氏名	不動産鑑定士 内藤 武美
鑑定評価額	7,250,000 円	1㎡当たりの価格	31,800 円/㎡	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和6年7月1日	(4)鑑定評価日	令和6年7月10日	(6)路線価	[令和6年1月]	円/㎡
(2)実地調査日	令和6年7月1日	(5)価格の種類	正常価格	路線価又は倍率	倍率種別	1.4 倍
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等	千曲市大字内川字堀田久保871番6				地積 (㎡)	228 ()	法令上の規制等				
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況	(都)1中専 (60, 200) (その他) (60, 160)					
(2) 近隣地域	範囲	東 150 m、西 70 m、南 100 m、北 150 m		標準の使用	低層住宅地							
	標準的画地の形状等	間口約 12 m、奥行約 20 m、規模 240 ㎡程度、形状 長方形										
	地域的特性	特記事項	幹線道路背後の戸建住宅地域。	街路	標準方位北 4 m	交通施設	千曲駅 西方1.3km 法令 規制 (都)1中専 (60, 160)					
	地域要因の将来予測	幹線道路沿いに多くの生活利便施設が立地しており、周辺では小規模な住宅地開発が盛んである。それに伴い地域の熟成度が向上している。今後も宅地の需給は堅調に推移し、地価動向は上昇が続くものと予測する。										
(3) 最有効使用の判定	低層住宅地		(4) 対象基準地の個別的要因	方位 +3.0								
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格	31,800 円/㎡									
	収益還元法	収益価格	14,500 円/㎡									
	原価法	積算価格	/ 円/㎡									
	開発法	開発法による価格	/ 円/㎡									
(6) 市場の特性	同一需給圏の範囲は千曲市郊外の住宅地域である。需要者は当市内の居住者、千曲市内外への通勤者が中心であり、周辺市町村からの転入者もみられる。周辺の幹線道路沿いで生活利便施設や商業施設が数多く立地していることから近隣地域の利便性は良好であり、不動産需要は強い。さらに、内川地区及び周辺では宅地開発が盛んにおこなわれていて、その取引価格水準は高い。需要の中心となる価格帯は土地で600～800万円程度である。											
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	収益価格はアパートを想定して求めた理論的な価格であるが想定要素も含むため精度は劣る。比準価格は類似地域における信頼性の高い事例を採用しており、実証的で市場の実態を反映した価格である。近隣地域は戸建住宅の自己使用目的の取引が中心であり、市場では取引価格の水準を指標に価格決定されることが多い。よって、比準価格を重視し、収益価格を参考にとどめ指定基準地との均衡にも留意の上、鑑定評価額を上記のとおり決定した。											
(8) 公示価格	代表標準地	標準地	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路交通環境画地行政その他	地域要因	街路交通環境行政その他
	公示価格	円/㎡	[]	100	100	[]	100					
(9) 指定基準地	指定基準地番号	千曲(県)-2	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路交通環境画地行政その他	地域要因	街路交通環境行政その他
	前年指定基準地の価格	33,500 円/㎡	[100.0]	100	100	[103.0]	31,600					
(10) 対年の標準価格等	-1 対象基準地の検討	継続 新規	前年標準価格	31,300 円/㎡								
	-2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討	代表標準地 標準地	標準地番号	公示価格	円/㎡							
	変動率	年間 +1.6 %	半年間	%								
	変動状況	<p>[一般的要因] 内川地区人口はやや減少、周辺地区はやや増加で推移。当地区にドラッグストア、スーパー等商業施設が集積し、公園も近くにみられる。</p> <p>[地域要因] 大きな変動要因はない。洪水浸水想定区域(浸水深5m～10m未満)に指定されているが水害リスクは標準価格に反映している。</p> <p>[個別的要因] 個別的要因による変動要因はない。</p>										

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社ながの鑑定
千曲（県） -6	長野県	長野第1	氏名	不動産鑑定士 奥村 淳
鑑定評価額	6,870,000 円		1㎡当たりの価格	29,000 円/㎡

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和6年7月1日	(4) 鑑定評価日	令和6年7月10日	(6) 路線価	[令和6年1月] 路線価又は倍率	円/㎡ 1.1 倍
(2) 実地調査日	令和6年7月2日	(5) 価格の種類	正常価格		倍率種別	
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等		千曲市大字稲荷山字釜蓋1834番33			②地積 (㎡)	237	⑨法令上の規制等		
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況	(都) 1低専 (50,80) (その他) (50,80)			
(2) 近隣地域	①範囲		東 70 m、西 75 m、南 45 m、北 50 m			②標準的使用	低層住宅地			
	③標準的画地の形状等		間口 約 13.5 m、奥行 約 17.5 m、規模 240㎡程度、形状 長方形			④地域的特性	特記事項	幹線道路沿い量販店の背後の住宅団地		
	⑤地域要因の将来予測		熟成した住宅団地で今後も現状維持と予測する。千曲川西岸で中心部から離れるが、近年街路整備や量販店進出により住宅地需要も増えつつある。比較的安定した需要に支えられ、地価は底打ち、安定と予測する。			交通施設	稲荷山駅南西方 2.4km	法令規制 (都) 1低専 (50,80)		
(3) 最有効使用の判定	低層住宅地					(4) 対象基準地の個別的要因	方位	+1.0		
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		基準価格		29,000 円/㎡					
	収益還元法		収益価格		9,810 円/㎡					
	原価法		積算価格		/ 円/㎡					
	開発法		開発法による価格		/ 円/㎡					
(6) 市場の特性	同一需給圏は稲荷山地区を中心とした千曲川西岸の住宅地域。需要者は当該圏域内の居住者が中心で他市域等からの転入もみられる。千曲川西岸で屋代駅等からは遠いが、周辺の郊外路線商業施設も充実してきており、生活水準は向上していると思われる。近年の金融環境改善・維持により一定の需要はあると思われる。需給圏内の土地価額は700万円前後程度、新築の戸建物件は2200万円程度が需要の中心と思われる。									
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	千曲市役所が近くなり、近隣地域及び周辺にはアパートも散見され賃貸借需要は普通程度にある。しかし、当該近隣地域内では元来戸建住宅が建ち並ぶ状況で、そもそも収益性より居住の快適性が重視され、自用目的での取引が中心と考えられる。よって、稲荷山地区中心の住宅地取引に基づき比較検討した基準価格を重視し、収益価格は参考に止め、指定基準地との検討も踏まえ、地積と単価、総額との関連にも留意して本件鑑定評価額を上記のとおり決定した。									
(8) 公示価格とした	① <input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路交通環境画地行政その他	
	標準地番号		[]	100	100	[]		標準化補正	街路交通環境画地行政その他	
(9) 指定基準地からの検討	① 指定基準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳	0.0 街路 0.0 交通 +3.0 環境 +10.0 画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	
	千曲（県） -2		[100.0]	100	100	[101.0]		標準化補正	0.0 街路 0.0 交通 +3.0 環境 +10.0 画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	
(10) 対年からの検討	①-1対象基準地の検討		③ 価格形成要因の変動状況	一般的 物価高騰、実質賃金減少等により景気好循環には至らないが、住宅地取引は低金利や住宅ローン減税等金融緩和継続から好調を維持。					⑦内訳	
	■継続 <input type="checkbox"/> 新規 前年標準価格 29,000 円/㎡			地域 市中心部への時間的距離は遠いが、南～西方の幹線街路への量販店出店が増えており、従来より利便性は向上している。						
対年からの検討	①-2基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討		③ 価格形成要因の変動状況	個別的 個別的要因に変動はない。					⑦内訳	
	<input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡									
②変動率		年間 0.0 %	半年間 %							

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社ながの鑑定
千曲（県） 5-1	長野県	長野第1	氏名	不動産鑑定士 奥村 淳
鑑定評価額	8,230,000円		1㎡当たりの価格	31,900円/㎡

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和6年7月1日	(4) 鑑定評価日	令和6年7月10日	(6) 路線価	[令和6年1月] 路線価又は倍率	円/㎡ 1.1 倍
(2) 実地調査日	令和6年7月2日	(5) 価格の種類	正常価格		倍率種別	
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等		千曲市上山田温泉1丁目70番2			②地積 (㎡)	258	⑨法令上の規制等	
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況	(都) 商業 (80,400) (その他) (80,400)		
(2) 近隣地域	①範囲		東 20m、西 30m、南 50m、北 50m			②標準的使用	低層店舗地		
	③標準的画地の形状等		間口 約 13.0m、奥行 約 20.0m、規模			260㎡程度、形状 長方形			
	④地域的特性	特記事項	特にない	街路	11m市道	交通施設	戸倉駅南西方 2.1km	法令規制 (都) 商業 (80,400)	
(3) 最有効使用の判定	低層店舗地					(4) 対象基準地の個別的要因	なし		
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		基準価格		32,500円/㎡				
	収益還元法		収益価格		17,400円/㎡				
	原価法		積算価格		/ 円/㎡				
	開発法		開発法による価格		/ 円/㎡				
(6) 市場の特性	同一需給圏は戸倉・上山田ほか北信・東信の温泉商業地全域。需要者は地元の個人事業者あるいは中小企業で、稀に県内外から経営参加する観光業者もある。上山田温泉の旅館業は長引く不況により経営環境は悪化し廃業、閉鎖、倒産が相次いだ。令和元年の台風19号による千曲川決壊、令和2年以降のコロナ禍のダメージは大部分らいだものの構造的な不況は容易に解決できない。商業地取引件数も少なく、需要の中心となる価格帯の把握は困難な状況である。								
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	取引事例比較法は当市の商業地の取引事例を採用し実証性が高い。一方、収益還元法は店舗の一棟貸しを想定した。温泉旅館街特有の温泉旅館、土産品店等の物件は元々自用目的で賃貸には馴染まないため飲食店を想定したが、当該賃貸市場の熟成度の低さから収益価格は低位に求められた。よって、実証的な基準価格を重視し、収益価格を参酌して本件鑑定評価額を上記のとおり決定した。								
(8) 公示価格とした	① <input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地 標準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳 街路交通環境画地行政その他	地域要因 街路交通環境行政その他
	公示価格 円/㎡		[] 100	100 []	100 []	[] 100			
(9) 指定基準地からの検討	① 指定基準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳 街路交通環境画地行政その他	地域要因 街路交通環境行政その他
	前年指定基準地の価格 円/㎡		[] 100	100 []	100 []	[] 100			
(10) 対年標準価格の検討等	①-1対象基準地の検討 ■継続 <input type="checkbox"/> 新規 前年標準価格 32,400円/㎡		③価格形成要因の変動状況	一般的 団体旅行客の減少、高速道や新幹線開業により首都圏からの日帰り圏内となり温泉旅館等宿泊業は不振。コロナ禍の影響は大部分らいだ。					
	①-2基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討 <input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡			地域 戸倉・上山田温泉の観光客数は平成27年北陸新幹線開業時に一時的に回復したが、以降は減少傾向。最近では日帰り客集客にも注力。					
	②変動率 年間 -1.5% 半年間 %			個別的 個別的な要因による変動はない。					

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	内藤事務所有限会社
千曲(県)5-2	長野県	第1	氏名	不動産鑑定士 内藤 武美
鑑定評価額	17,000,000 円	1㎡当たりの価格	45,700 円/㎡	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和6年7月1日	(4)鑑定評価日	令和6年7月10日	(6)路線価	[令和6年1月]	円/㎡
(2)実地調査日	令和6年7月1日	(5)価格の種類	正常価格	路線価又は倍率	1.2倍	
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等	千曲市大字粟佐字獅子1537番3				地積 (㎡)	371	法令上の規制等													
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況	(都)準住居 (60, 200)														
	1.5:1	店舗 S2	各種店舗、事務所ビル等が建ち並ぶ国道沿いの商業地域	西12m国道、背面道	水道、ガス、下水	屋代 800m	(その他)														
(2) 近隣地域	範囲	東 15 m、西 0 m、南 40 m、北 60 m 標準的使用 低層店舗事務所併用地																			
	標準的画地の形状等	間口約 25 m、奥行約 15 m、規模 375 ㎡程度、形状 ほぼ長方形																			
	地域的特性	特記事項	特にない	街路	12m国道	交通施設	屋代駅 北西方800m	法令規制 (都)準住居 (60, 200)													
	地域要因の将来予測	国道沿いではあるが新規出店や開発計画はなく繁華性に乏しい商業地域である。価格水準が底値に近づきつつあるが、交通渋滞、商況の衰退などの影響があり、当面現状維持で地価はわずかに下落するものと予測する。																			
(3) 最有効使用の判定	低層店舗事務所併用地						(4)対象基準地の個別的要因	二方路	0.0												
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格					46,300 円/㎡														
	収益還元法	収益価格					29,000 円/㎡														
	原価法	積算価格					/ 円/㎡														
	開発法	開発法による価格					/ 円/㎡														
(6) 市場の特性	同一需給圏は、千曲市の商業系地域が圏域。需要者は沿道型サービス店のほかフランチャイズ制の店舗を営む県内外の法人が中心と考えられる。代替競争関係にある長野市篠ノ井地区の商業施設に顧客が流出しており、需要はまだ弱い。しかし、価格水準が底値圏にあること、当該地域及び周辺に商業施設が一定程度集積し、新規店舗が出店していることなど需給関係は改善しつつある。取引の画地規模はまちまちのため中心となる土地価格帯の把握は困難である。																				
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	比準価格は類似地域の自己目的の取引事例に基づいており、市場の実態を反映する実証的、かつ、説得力の高い価格である。低層利用が多い地域の特性を反映した想定建物であることから収益価格は低位に試算された。当該地域の交通量は多いものの、収益性が十分確保できるだけの賃料水準は形成されていないため収益価格の信頼性は低い。そこで実証的な比準価格を重視し、収益価格を比較考量して類似の標準地との検討も踏まえ鑑定評価額を上記のとおり決定した。																				
(8) 公示価格	代表標準地	標準地	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路 0.0	交通 0.0	環境 0.0	画地 0.0	行政 0.0	その他 0.0	地域要因	街路 +3.0	交通 +2.0	環境 -4.0	行政 +3.0	その他 0.0
	標準地番号	千曲5-1	[99.7] / 100	100 / [100.0]	100 / [103.9]	[100.0] / 100	45,500														
(9) 指定基準地	指定基準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の比準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路	交通	環境	画地	行政	その他	地域要因	街路	交通	環境	行政	その他	
	前年指定基準地の価格	[] / 100	100 / []	100 / []	[] / 100	[]															
(10) 対象基準地の前年標準価格等の検討	-1 対象基準地の検討	継続 新規																			
	前年標準価格	45,900 円/㎡																			
	-2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討	代表標準地	標準地																		
	標準地番号	公示価格	円/㎡																		
	変動率	年間	-0.4 %	半年間	%																
	変動状況	[一般的要因] 旧更埴市の商圏人口(R3)は前回に比べやや減少した。R3年通行量調査によると国道18号の通行量は前回に比べ減少した。 [地域要因] 大きな変動要因はない。洪水浸水想定区域(浸水深5m~10m未満)に指定されているが水害リスクは標準価格に反映している。 [個別的要因] 二方路であるが背面道(市道・非道路)の状況から増価要因はなく、個別的要因に変動はない。																			

鑑定評価書 (令和6年地価調査)

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	内藤事務所有限会社	
千曲(県)5-3	長野県	第1	氏名	不動産鑑定士	内藤 武美
鑑定評価額	16,700,000 円		1㎡当たりの価格	29,900 円/㎡	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和6年7月1日	(4)鑑定評価日	令和6年7月10日	(6)路線価 路線価又は倍率 倍率種別	[令和6年1月]	円/㎡
(2)実地調査日	令和6年7月1日	(5)価格の種類	正常価格		1.1 倍	
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等	千曲市大字鑄物師屋字側淵180番5				地積 (㎡)	560 ()	法令上の規制等			
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況	(都)準工 (60, 200) (その他)				
	1:1.5	店舗兼住宅 W2	低層店舗、工場、事務所が建ち並ぶ国道沿いの路線商業地域	南西9.5m国道	水道、下水	屋代 1.2km					
(2) 近隣地域	範囲	東 40 m、西 50 m、南 100 m、北 250 m		標準的使用	低層店舗地						
	標準的画地の形状等	間口約 25 m、奥行約 40 m、規模		1,000 ㎡程度、形状 ほぼ長方形							
	地域的特性	特記事項	交通量の多い基幹国道沿いに位置する路線商業地域	街路	9.5 m国道	交通施設	屋代駅 南方1.2km	法令 (都)準工 (60, 200) 規制			
	地域要因の将来予測	郊外に位置する国道沿いの商業地域にあり、地域要因の変動要因は特段把握できず、当面は現状維持と予測。商況は回復途中にあることや価格水準が底値圏にあることから地価動向は横ばいと予測する。									
(3) 最有効使用の判定	低層店舗地		(4)対象基準地の個別的要因		ない						
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格		30,800 円/㎡							
	収益還元法	収益価格		17,900 円/㎡							
	原価法	積算価格		/ 円/㎡							
	開発法	開発法による価格		/ 円/㎡							
(6) 市場の特性	同一需給圏の範囲は千曲市の商業地域で長野市犀南地区も含まれる。需要者は沿道サービス業や事業所経営を行う市内の法人又は事業経営者が中心であるが全国展開する法人も含む。近隣地域は国道18号沿いの路線商業地域であり、通行量は多く、新規進出の店舗がみられるなど一定の競争力は保持している。さらに、価格水準が底値に近づいたこともあって需給関係はほぼ安定している。取引規模がばらばらで需給の中心となる土地価格帯は見出し難い。										
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	比準価格は類似地域の自己目的の取引事例に基づいており、市場の実態を反映する実証的で説得力の高い価格である。低層利用が多い地域の特性を反映して建物を想定したことから収益価格は低位に試算された。収益性が十分確保できるだけの賃料水準は形成されていないと考えられるため収益価格の信頼性は低い。そこで、実証的な比準価格を重視し、商業地域であるため収益価格を比較考量して類似の標準地との検討を踏まえ鑑定評価額を上記のとおり決定した。										
(8) 公示価格	代表標準地 標準地	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	地域要因	街路 +5.0 交通 +2.0 環境 +32.0 行政 0.0 その他 0.0
	公示価格	[99.7] 100	100 [100.0]	100 [141.4]	[100.0] 100	29,600					
(9) 指定からの検討	指定基準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の比準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域要因	街路 交通 環境 行政 その他
	前年指定基準地の価格	[] 100	100 []	100 []	[] 100						
(10) 対年標準価格の検討	-1 対象基準地の検討		価格変動状況	[一般的要因] 旧更埴市の商圏人口 (R3) は前回に比べやや減少した。R3年通行量調査によると国道18号の通行量は前回に比べ減少した。							
	-2 基準地が共通地点 (代表標準地等と同一地点) である場合の検討			[地域要因] 大きな変動要因はない。洪水浸水想定区域 (浸水深5m~10m未満) に指定されているが水害リスクは標準価格に反映している。							
	代表標準地 標準地	公示価格		[個別的要因] 標準的画地であり、個別的要因に変動はない。東側に道路があるものの水路を介在 (未利用) している。							
	変動率	年間	0.0 %	半年間	%						

鑑定評価書 (令和6年地価調査)

Table with 5 columns: 基準地番号, 提出先, 所属分科会名, 業者名, 合同会社齋藤不動産鑑定. Values include 千曲(県)9-1, 長野県, 第1, 氏名, 不動産鑑定士 齋藤 隆.

1 基本的事項

Table with 6 columns: (1)価格時点, (2)実地調査日, (3)鑑定評価の条件, (4)鑑定評価日, (5)価格の種類, (6)路線価. Values include 令和6年7月1日, 令和6年7月10日, 正常価格, 1.1倍.

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

Main evaluation table with 10 rows. (1) 所在地: 千曲市大字屋代字松ヶ崎1221番1外. (2) 範囲: 東0m, 西40m, 南120m, 北50m. (3) 最有効使用の判定: 工場地. (4) 対象基準地の個別的要因: ない. (5) 鑑定評価の手法の適用: 取引事例比較法, 比準価格 18,900 円/m². (6) 市場の特性: 同一需給圏は千曲市を中心とする北信地方の工業地域である. (7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由: 近隣地域は中小規模工場を中心とする工業地域である. (8) 公示価格: 14,800 円/m². (9) 指定基準地: 前年指定基準地の価格. (10) 対象基準地の検討: 変動率 年間 +2.7%.